

## TCFD 提言に基づく情報開示を更新しました

当社は、「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)※提言」に基づく情報開示を更新いたしましたのでお知らせいたします。

### ◆森永乳業ウェブサイト「TCFD への取り組み」

[https://www.morinagamilk.co.jp/sustainability/resources\\_and\\_the\\_environment/tcfd/](https://www.morinagamilk.co.jp/sustainability/resources_and_the_environment/tcfd/)

森永乳業グループでは、「森永乳業グループ 10 年ビジョンの実現」を見据え、中期経営計画と連動させる形で、「サステナビリティ中長期計画 2030(以下、サスプラン 2030)」を策定・推進しています。サスプラン 2030 では、「食とウェルビーイング」「資源と環境」「人と社会」の 3 つのテーマと7つのマテリアリティを取り組みの軸にしています。中でも、「気候変動の緩和と適応」を重要なマテリアリティの 1 つとして設定しており、2021 年 3 月より TCFD 提言に賛同表明をし、TCFD コンソーシアムに加盟しています。

また、森永乳業グループの商品は、乳をはじめ、コーヒー豆、茶葉、アロエなど、自然の恵みである農産物を原材料としています。これら農産物を育ててきた自然に感謝し、これからも自然環境を守り続けていくため、原材料調達や事業継続に影響を及ぼし得る気候変動リスクを重要な経営課題として捉え、気候変動に影響する自社およびサプライチェーンの温室効果ガス排出を最小限にするとともに、気候変動の緩和と適応への対応を進めます。

### ※TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)とは

G20 の要請を受け、主要国の中央銀行や金融規制当局などが参加する国際機関である金融安定理事会(FSB)により 2015 年に設立されました。気候変動がもたらすリスクと機会が企業経営に与える財務的影響を評価し、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について適切に開示することを推奨しています。

本タスクフォースは 2023 年状況報告書の発表後、TCFD の開示枠組みを包含した IFRS S2 をはじめとする国際的なサステナビリティ情報開示基準が策定されております。このため、TCFD の開示枠組みは気候変動が企業の財務にもたらすリスク・機会の内容や影響をステークホルダーに開示する枠組みとして現在も引き続き利用されています。